

## 会 議 摘 録

<b>会議名称</b>	御幸公園 <sup>うめかおる</sup> 梅香事業第1回推進会議
<b>日 時</b>	平成27年8月25日（火） 15:30～17:00
<b>会 場</b>	幸区役所4階第1会義室
<b>出席者</b>	<p><b>【委員】</b></p> <p>上野区長（委員長）、道路公園センター 吉濱所長（副委員長）、鏑木委員、 金井委員、佐野委員、神谷委員、深瀬委員、君和田委員、小林委員、水谷委員、 服部委員、</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>道路公園センター 管理課 山口課長補佐、長谷川職員 整備課 佐々木担当課長、飯田係長、山下職員</p>
<b>欠席者</b>	佐藤委員
<b>傍聴者</b>	5人
<b>配布資料</b>	<p>議事次第</p> <p>資料1 御幸公園梅香事業実施要綱</p> <p>資料2 御幸公園梅香事業推進会議設置要綱</p> <p>資料3 御幸公園の概要</p> <p>資料4 梅香事業の検討項目について</p> <p>資料5 近隣の梅林一覧とコース（案）</p> <p>資料6 御幸公園梅香事業推進会議 スケジュール（案）</p> <p>参 考 コラム 御幸梅林</p>
<b>議 題</b>	<p>(1) 御幸公園梅香事業の要綱について</p> <p>(2) 梅香事業の検討項目について</p> <p>(3) 現地視察について</p> <p>(4) スケジュールについて</p>
<b>決定事項</b>	<p>◎御幸公園梅香事業実施要綱の「目的（第1条）」を修正する。</p> <p>◎資料5に、「収穫祭」の情報を加える。</p> <p>◎次回会議は、「11月10日（火）15:30～」で開催する。</p>
<b>会議の内容 及び 主な発言</b>	<p>1 委員長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区制43年目をむかえ、当時の人口が約15万3千人だったのが、約16万人まで増加しており、2030年には約16万7千人でピークに達すると言われている。</li> <li>・これまで夢見ヶ崎公園において、園路やトイレ等の整備を行い、区民の方々のアクセスや利便性を向上させ、地域の魅力を発信する取組を実施してきた。</li> </ul>

- ・御幸公園においても、地域の魅力発信や愛着心を育む試みを実施できないか、昨年度から行政内部で検討してきた。
- ・そうしたところ、今年度、行政内部の合意が得られたことから、本事業をスタートすることとした。
- ・10年後の市制100周年に向け、皆様と協働で1歩ずつ事業を実施していきたいと考えている。
- ・地域に根差した皆様の活発な御意見をいただきたい。

## 2 自己紹介

参加委員から、1人ずつ自己紹介を行った。

## 3 議題

### (1)御幸公園梅香事業の要綱について

資料1～3について、事務局から説明を行った。

○御幸公園梅香事業実施要綱の「目的（第1条）」に、御幸公園の名前の由来である、明治天皇の行幸について言及した方がよいのではないか。

←御意見を踏まえ、事務局で記載内容について検討し、次回会議で差し替えたい。他にも修正点があれば言ってもらいたい。

参考資料について、服部委員から説明を行った。

- ・参考資料は、平成3年に発行した「かわさき文化財読本」が抜粋したものである。
- ・御幸公園で一番大きなトピックスは、明治天皇が観梅に行幸され、そのことが区名の由来にもなったことである。
- ・資料にある「観梅跡碑」は、昭和6年当時に侍従長だった、鈴木貫太郎によって書かれたものである。また、裏面には、御幸煉瓦製造所の二代目である、増山周三郎の名前もあるなど、地域を上げて作成したことがわかる。
- ・同じく資料にある、御幸梅林の名を広く世に知らしめた成島柳北の兄の孫が、森繁久弥という、こぼれ話もある。
- ・明治期には、長十郎梨や万福寺人参といった、地域の名産農作物を作ることが盛んだったが、御幸の梅も同じような側面を持っていたものと思われる。
- ・御幸梅林について持っている資料は非常に限られているため、これから資料の掘り起こしをしたいと考えている。

←御幸公園梅香事業推進会議設置要綱の「所掌事項（第2条）(9)」に、「事業報告書案の集約」とあるが、こちらに御幸公園の歴史的経緯についても、しっかりと記載していきたいと考えている。

(2)梅香事業の検討項目について

資料4について、事務局から説明を行った。

- 梅林の管理について、行政だけでは手が回らないところも出てくると思われることから、地域の人々の協力を得ながら実施していく体制を整備した方がよいと思う。
- 地域の人々の協力を得ながら実施していくのは非常によいことだと思うが、ボランティアをあてにし過ぎるのは継続性の観点から不安もあるので、しっかりと行政も関わってもらいたい。
- 近隣の店舗に協力してもらった、お菓子作りなどはおもしろいと思う。
- 梅を1本植えるのに、いくらかかるのか。
  - ←木だけだと6万円ぐらい。それに植え付けの作業経費で14万円程度かかる。また、土壌が悪いので、その改良も必要となってくるため、トータルで50万円程度を見込んでいる。
  - ←土壌改良については、行政できちんと実施していくものと認識しており、しっかりと予算要求をしていく予定である。梅の寄付についても、木の購入に充て、土壌改良や作業経費は、行政の予算で実施するべきだと考えている。また、場合によっては、梅園の植樹範囲を見直すことも視野に入れている。
- 成木を植えるだけでなく、苗木を子どもたちに植えてもらい、植物を育てる喜びをしてもらうのもよいのではないか。
  - ←苗木で植樹をすると生長が遅いことから、全面的には難しいが、一部にそういったエリアがあってもよいと思う。
- 植樹は、どの程度の間隔で実施するのか。
  - ←4, 5m間隔を想定しているが、観賞用や食用などの用途によって整備の仕方が変わり、それにより必要な間隔も変わってくる。
- 「梅香（うめかおる）」のネーミングがよいと思った。事業が軌道に乗った際には、「御幸梅香公園」といった、公園名称の変更を考えてもよいのではないかと。それにより、注目度も上がると思う。
- 公園利用者が梅を見てそのまま帰るのか、それとも多摩川に抜け、引き続いて散策を楽しんでもらうのか、そういったことも考えてみてはどうか。
- 御幸公園をどんな場にしたいのか考えるのが重要ではないか。個人的には、伝統的なものを大切にしたいと思った。幅広い世代が参加できる場、集いの場になればよいと思う。
- 各地に梅林があるが、それとは違う、生活に密着した梅林にしていくのがよいのではないかと。収穫祭をやって、みんなで料理を作ってみるといったことなど

が楽しいのではないか。

○まずは、地元にもしっかり意見を聞きながら昔の梅林を復活させ、それからいろいろなイベント等に手を広げていったらどうか。

○御幸公園は、他の梅林が有名な場所と比べると規模が小さい。その小さいところでどうやって魅力を発信するかが課題になってくるのではないか。ただ、そこで小さくまとまってしまっってはいけない。

○御幸周辺の歴史を勉強してみると、田中休愚や佐藤惣之助など、川崎区でも馴染みのある名前が出てくる。また、東海道交流館も来場者数が10万人を超えるなど、多くの人が地域の歴史に興味を持っている。そのため、区の垣根を超えたオール川崎での取組も実施していくべきだと思う。

### (3) 現地視察について

資料5について、事務局から説明を行った。

○花を見るだけでなく、収穫祭も検討の対象に加えてはどうか。他都市では、大道芸人を呼んで賑やかにイベントを開催しているところもある。

←資料5に、「収穫祭」の情報も加える。また、毎年度、視察を実施することを考えているので、実が成る時期や、閑散期ではどのような運営をしているのか視察するのもよいと思う。

←視察について、バスの借り上げ代等は行政で負担するが、弁当代は参加者で負担してもらいたいと考えている。

### (4) スケジュールについて

資料6について、事務局から説明を行った。

・推進会議の開催は、年に3, 4回を予定している。なお、梅の開花時期によっては、2月の視察と3月の第4回会議の順番を入れ替えることも想定される。

・視察については、11月上旬に予定している、第2回会議でコースを決定したいと考えている。

⇒その後、スケジュール調整をし、第2回推進会議の開催が、

「11月10日(火) 15:30～」に決まった。

### (5) その他

・次回以降、検討テーマをしぼって議論させていただきたい。

・来年度初めまでは、企画・立案について重点的に検討を行っていきたいと考えている。

以上